

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0270301542		
法人名	医療法人 高人会		
事業所名	グループホーム かえで		
所在地	〒031-0833 青森県八戸市大字大久保字西ノ平25-294		
自己評価作成日	平成30年10月3日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人青森県老人福祉協会		
所在地	030-0822 青森市中央3丁目20-30		
訪問調査日	平成30年11月14日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当ホームは渡り廊下で医療へ隣接しており、急変時等に早急な対応が可能であり、医療連携による看護師の柔軟な相談・訪問が行われているため、日常の健康管理においては質の高いケアが実施されていると判断している。半数の利用者様が透析療法を受けられており、食事水分制限・排泄コントロール・透析後の止血確認など、職員の観察力・臨機応変な見極めの力が利用者様の安定した日常生活には欠かせないものとなっています。スタッフの半数が介護福祉士を取得しており、実務者研修修了者も全員介護福祉士を目指し勉強しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

閑静な住宅街にあり、敷地内に併設されている病院と廊下でつながっている。透析を受けている利用者も急変時や日常の生活管理において医師の指示や看護師による処置を迅速に受けることができる。利用者の情報が確実に申し送りがなされ、生活に支障がないように職員間の連携が図られている。職員は、一人ひとりにあった外出支援や外部との交流を兼ねた行事を企画し体調に合わせて参加の促しをしている。日常的に、食後の後片付けや茶碗拭きなど職員と一緒に会話を楽しみながら過ごすことができている。日々楽しく、笑顔で過ごして頂けるようきめ細やかな配慮がなされている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員間で理念作りをする機会を設け、自分自身が認知症になった時の不安な気持ちやグループホームとして役割を理解してもらえように取り組んでいる。事業所理念を毎朝唱和してからケアに入っている。	年1回理念について、再確認している。そのうえで、毎朝就業前に理念を唱和し一人ひとりにあったケアを確認しながら業務を行っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議を通じて町内会役員様と親密な関係になり、大きな行事がある時は、町内の人や独居の方々にも気軽に足を運んでもらえるようになってきている。	町内会役員とは、日常のちょっとした困りごとでも気軽に訪問できる関係を築いている。町内会の回覧板に広報誌を掲載し気軽に交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	出版本や研修などで得た認知症のについての知識を2ヶ月毎に発行するホーム機関紙で掲載して町内会の回覧板で回している。昨年度は、運営推進会議内でアルツハイマー型認知症の理解について議題に挙げ発表した。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、ホームサービスの報告や取り組みについて議題に挙げ、町内役員様や法人代表等と意見交換をしてサービス向上に繋がるように努めている。	運営推進会議は、2か月に1回開催しており、町内会役員の方や家族等、サービスや地域交流も含めた行事等への意見を頂き、業務や行事へ取り入れサービス向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営等に対して疑問があった時は、市の担当者に問い合わせ正確な解答を頂いている。	家族からの問い合わせに、事業所の実情やケアの取り組みを伝えながら、家族が不安や疑問を持たないように適切な返答ができるよう協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束についての勉強会を行い、全職員が身体拘束をしないケアを実施出来るように努めている。また、やむを得ない理由で身体拘束をする時は、十分に説明、同意を得た上で、出来る限り最小限で行うように努めている。	身体拘束についての勉強会を事業所内で実施している。新しい職員に対して、「その人らしい生活」を心がけるよう働きかけ、職員同士、スピーチロック等常にお互い気を付けている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	年1回、虐待防止の研修会に参加し、受講後は、職員会議で勉強会を行っている。また、利用者様やご家族様からの要望なども全職員に発信し、情報共有すると共にケア向上に繋げられるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護についての研修会に参加したり、勉強会を行うことで、制度をより理解できるように努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約を締結する時や改定等があった場合は、十分な説明をして契約を結んでいる。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に目安箱を設置している。家族アンケートの結果や意見・要望等は、運営推進会議で報告している。管理者から代表者へ報告することで、運営に反映させている。	玄関に意見箱を設置している。また、家族へアンケートや面会時に意見・要望を確認している。出された意見等は、会議で話し合い、行事や運営に反映されている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者も職員会議にも参加することで、職員会議で出た意見等を反映出来るように努めている。	月一回の職員会議では、ケアや業務についての改善意見等を会議録にまとめ、代表者へ提案し、運営に関する職員の意見を反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	毎年昇給があり、職員のやりがいに繋がっている。残業も殆どなく、殆どの職員が定時に帰ることが出来ている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員一人ひとりの経験や能力に合わせ、必要な研修へ参加を実施している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	施設外研修に参加することで、同業者と交流する機会を設けている。また、研修後勉強会等で情報を共有することで、サービスの質の向上を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	相談の段階で本人・御家族に面接し、困っていることやサービスに関して話し合いを行い、入所時安心できるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	インテークの段階で家族が抱えている困っていることや要望などを聞き、可能な支援について話し合っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	暫定プランを設け、必要な支援の見極めを行っている。家族や町内との連携も必要に応じて取り入れている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	茶碗拭きや食事の盛り付け、洗濯干しなど、それぞれの利用者が出来る活動に参加してもらっている。役割を持って生活出来るように努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	行事やイベント時、ご家族に参加してもらうようにしている。利用者が不安を訴える時などは、ご家族に協力してもらい、面会回数を増やしてもらったり、外出に連れて行ってもらうたりしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族の協力のもと、馴染みの人や場所との関係が途切れないように努めている。なかなか会えない方の場合、写真などを居室に飾っている。	外出行事の際は、馴染みのある道を選んで目的地へ出かけている。家族の支援で行きつけの美容院へ行っている。また、親戚の人に来てもらったり、いつでも家族との思いでを語り合えるように、家族写真を居室に飾っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	作業をお願いする時も利用者同士が関わられるように配慮し、共に暮らしている仲間として支えあって生活できるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了しても必要に応じてご家族からの相談に応じている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃から本人の希望や意向を把握できるように努めている。また、アセスメント時に意向の確認を行っている。困難な場面は、家族から聞き取りをし、情報収集している。	センター方式を利用し職員一人一人が、日常の何気ない会話より、意向の把握に努めている。又、家族へも聞き取りし、より細かく意向を把握するよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式を活用し、本人やご家族から情報収集をしている。生活歴の必要性を伝え可能な限り協力してもらえよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	1日の流れや本人の拘り、出来ること出来ないことを把握し、新しい気付きなどは記録に残し、職員間で共有している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケア会議でモニタリング、必要事項は検討の上ケア統一、プラン変更をおこなっている。また、家族へ現状報告をおこなうとともに、意見・要望を反映し、現状に即した計画作成に努めている。	家族へ現状を報告し意見・要望を確認し、モニタリングや評価を定期的に行っている。プランの見直しをはじめ、毎月のケア会議において、本人・家族の意向を踏まえ、課題とケアのあり方を検討し介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアを行う上で気付いたことを記録に残し、ケアカンファレンスの時に情報共有を図っている。その上で、介護計画の見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族が同行できない際の受診付き添い、突然の外出希望があったとしても出来る限り対応できるように柔軟なサービスに取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内会でおこなっている「イキイキサロン」や健康教室に参加したり、近隣の床屋へ出掛けるなど、その方の状態に応じた力が発揮できるように支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診が必要な際には家族へ連絡・相談の上支援している。また、日常の健康管理においては母体が医療法人であるため、常に連携が図られている。	法人本部が医療法人であり、事業所に透析を受けている方等もいる事から、常に連携を図っている。また、本人、家族も意向を確認し、他の病院を利用する体制が整えられている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	母体が医療法人であり細やかな連携が図られている。また、医療連携加算により常に法人看護師との相談、看護が可能であり、利用者様・家族から安心いただいている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際は、定期的な面会を実施するとともに、医療サイドとの情報交換に努め、環境の変化等による認知進行予防を考える上でも、早期退院への相談に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合の指針は、入所契約書類に含まれ説明がされている。また、医療サイドと連携を図り取り組んでいる。	入居する段階や体調に変化がある際は、終末期についての説明を行っている。医療法人と連携をとり、本人、家族の意向を踏まえ安心して納得した終末期が過ごせるように取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	医療要素の強い利用者様が多く、日々応急手当等の必要性が発生する状況から、定期的にスタッフ会議等で勉強会を実施している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練へは運営推進会議役員の皆様が参加しており、有事の際の連絡網も作成されている。災害用具等の持ち出しにおいても職員同様把握できており、協力体制を築いている。	年2回、運営推進会議の際、役員の方々・法人の看護師に参加して頂き訓練を火災・断水・停電などを想定し実施されている。非常時持ち出しリュック2個、非常食、災害備品の確保がされている。災害の際は、地域の避難場所としての提供も行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	「その人らしさを尊重したケアを行う」との理念に添い、会議等において振り返り・話し合い、謙虚な姿勢を忘れない努力をしている。	接遇やプライバシーなどの勉強会を実施している。改善の必要がある際は、ノートに記入し全職員に発信したり、職員会議等で話し合いを実施し、理念に沿ったケアが出来るように取り組んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	思いを表出し易いように、職員から話題提供を図ったり選択方式で自己決定を促すなどケアの中でさり気なく働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースを大切にするために、適時職員体制を変更することで、寄り添い・見守りを優先できるように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	希望に応じて理美容への外出を援助している。着替え時、お気に入りの洋服が着れるようアドバイスをおこないながら支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材切り、盛り付け、茶碗拭き等できる方のできることをしていただき、利用者と職員が楽しみながら一緒におこなっている。透析の兼ね合いもあり、ホームでの食事作りは朝食のみで朝・夕は母体厨房からの提供である。	利用者と職員と一緒に楽しみながら茶碗拭きや食事の準備を行っている。畑で育てた季節の食材を取り入れたり、買い出しに利用者と一緒に行き季節を感じて頂いている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	人工透析者が半数おり、一人ひとりの食事・水分管理がおこなわれ、状態や要求に応じた支援がおこなわれている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後は促しもと、できる動作への見守り・声掛けをおこないながら、一人ひとりの口腔ケア援助をおこなっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	時間での排泄誘導や声掛けによりオムツの使用が減ってきている。	排泄チェック表にて一人一人の排泄パターンを把握し、さりげない声掛けにてトイレ誘導を行っている。失禁回数が減少すると共に、排泄用品の見直しもを行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便を促すためにも歩行練習や乳製品の提供、腹部マッサージなどをおこない、自然排便ができるように支援している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた支援をしている	週3回の外来透析に通院されていることから、入浴日や時間帯が固定されてしまうが、その中で希望に合わせた入浴がおこなわれている。	週3回の透析もあり、曜日は固定となってしまいが、体調などを確認しながら順番はその時々で対応し、その方の入浴リズムに合わせゆっくりと入浴して頂いている。入浴が出来ない際は、清拭・足浴対応できるように体制を整えている。入浴の転倒リスク軽減のために、入浴剤の色にも気配りがされている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その時の状況に応じベッドだけではなくソファでも休めるようにしており、一人ひとりが自由に休息できるようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの薬情報が作成され、目的・回数などが分かりやすいように整理されている。服薬時においては、誤薬がないように2重確認がおこなわれている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりに合った手伝いを進めることで、自分の役割として積極的に活動している。買物や外出で気分転換にもなっている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	ご家族の協力のもと、実家や墓参りなどに出掛けられている。また、ホームのイベントでは気分転換に外食の機会も設けている。	透析を実施している方が数名いる為、外出できる曜日が決まっているが、家族の協力を得ながら、季節の行事や外食に出かけられている。週3回の食材の買い出しには利用者と一緒に外食する機会を設けている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	財布を所持できる利用者様には財布を所持していただき、その方の状態に合わせた支払援助をおこなっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話はいつでも利用できるようにしている。本人の希望により呼び出し援助をおこなっている。字が書ける方には、年2回ご家族にハガキを書いてもらっている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールと食堂にそれぞれテレビが設置されており、自由に観ることができている。カーテン等で光の調整をおこない、ホールからは季節の花を眺めることができるように工夫している。	居室に閉じこもる事がないよう、ホールで過ごしやすいようにソファや椅子・加湿器・テレビ2台が設置されている。季節を感じられる掲示物があり、利用者の見やすい高さで飾られている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	玄関や廊下など要所要所に椅子を配置しており、自由に座ることができている。ホールには一人掛けソファや3人掛けソファを配置することで、思い思いに過ごせるように工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具や馴染みのものを持って来てもらっている。	本人、家族から自宅での様子をお伺いしながら、利用者一人一人に合わせた家具の配置をおこなっている。自宅で飾っていた飾りや家族の写真などを飾り入居前と変わらずに生活できるようにしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下、トイレ等には手すりが設置され、洗面所は車椅子対応、キッチンと食堂はカウンターで仕切られ、利用者様と共同作業しやすい。浴室もシャワーキャリーでの援助を考え広く作られている。		